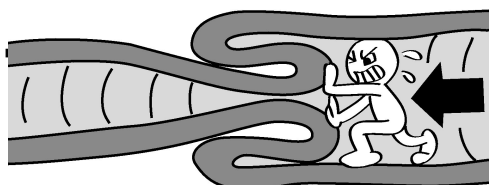


腸重積症…なあに？

①腸重積症は、乳幼児とくに4ヶ月から1歳に多くみられます。緊急な治療を必要とするぜひ知っておいて欲しい病気です。突然の腹痛のため不機嫌になり、嘔吐が出現、時に粘血便も認めます。

腸管の一部が腸管にもぐりこみ（重積）、腸が閉塞し、血行障害を起こすためです。ウイルス感染症を引き金に起こることもあり、季節的には冬から春にかけて多い病気です。



②**症状**：腹痛、嘔吐、粘血便が主な症状です。

(1) 腹痛：周期的な激しい腹痛のため不機嫌に泣いたり、顔色が蒼白となりぐったりすることを繰り返します。

(2) 嘔吐：最初はミルクや食べたものを吐きますが、時間が経過すると黄褐色のものを吐く（胆汁性嘔吐）こともあります。

(3) 粘血便：イチゴゼリ様の粘血便が特徴的ですが、浣腸ではじめて確認されることもあります。

③**診断**：特徴的な症状と腹部の診察で診断できますが、特徴的な症状がそろわず診断が困難な例もあります。X線検査、超音波検査などで確認します。

④**治療**：

(1) 発症後間もない場合、空気や造影剤を使用したX線透視下での高圧浣腸で整復を行います。高圧浣腸で整復に成功しても、すぐに再発することがあるので24時間は慎重に経過をみる必要があります。

(2) 発症後時間が経過し全身状態が悪い場合や高圧浣腸で整復できなかった時、腸管がすでに破れている（穿孔）場合などには緊急手術を行います。治療が遅れると腸がくさり（壊死）、腹膜炎を起して危険な状態になることがあります。

治療が遅れると腹膜炎を起こし危険です。特徴的な症状をよく覚えておいて、早く発見することが大切です。